彩板
絵入

勝海舟氏談話

五之巻

へ 13
2.015
5止

明徳紀行家形紀

同編　五之巻

鍵利

第一　奈良奥入京渡天

善光寺堀のたるびてく奈良ハ
出仏の[illegible]岩山の[illegible]ハ
江戸[illegible]ハ[illegible]一ト[illegible]

門へ 13
2015

第二　寄口合神德

寄加協の寄袋もしをうひ軍
編よむ云うゝ竜母が大祇
さゝふ仙地の蓋規ぐごろ

第三　寄祈禱出世門

大寄りふ美宝協のめけろ
うまを出ふ寄屏
四代七人のお寺如昌

出来之五

一　寄真入度天

寄真入度天

寄真入の法修勢の国ゝ女の墨ゝ加ゝ所ゝ者ゝ所ゝ
ゝそ。ゝ法ゝ日ゝ毎ゝ京白川の人墨ゝ人ゝ出ゝ
ゝん。ゝ法ゝ日ゝ毎ゝ江ゝ
ゝく。ゝ
新ゝ寄ゝ
ゝて天ゝ
ゝ者ゝ。ゝ
ゝ寄ゝ
ゝ大ゝ
ゝ

め神社ち流の神々法をとはせ給ふ。かうそあれるとを見んあるうれ。
人の宮はとふ又里十里ばいうひう。あか一条三千と我国の乃ぶ
こけへりはとうるゆそびお和祥人の本和いさ又和一人。
いそぶ大坂よむひ又淀よもぶひ。京に皆帰りてお後よりうた
上掘ゆんあるうれがさ。をのれ和よ戸も文あう儀よ形廟殿
驚して恐まつと。或人の曰をまちく和祥人よ祭をうとぶ
大室とでんぶ京けて月ひ淀「淀」ぶ石日ふ本後ふくく京生ハ
きぶ大和の宮の内し祢ぶ。おさく喜れゆひのてぶ。
のぶけさ京ちれく移のんあもけべき大法風。ぶりよ書を
なく時として恐を青海苔のあくあとう新雅やるう
きや治平に今年。スハとうあやいふ側のまてちぶしもうる和を
ふあ人を名ぶ堺の浦ふ移られあ名ふあ人畠のう記きの人

中でハまんりさう海よも急千潟ふ。新嘗のま紛い法紙ひ
見ばるようう奥掘のきさ又新よ見ふれであ松
の潟ふう海法海ひ。八日と法よ和ふ和ふ波ふ法戸ぬ石和
うれ行ふを嘉。向ふうに田法れ浦ふ沖のかふ孫ちどう。ふあに
ああいふふ新ふちんど極とあふ。ふ京ふ見ふそさ人なまふの結京。
ひ来ふれ浦ふ海ふあんふや赤ふ病のでく神を編ふ
ふ帆とうけて鎌ふ入竟法天とこのふひ材新ふあてやふふ。孫や
斎而行吉ぬ作ハ海とやふれ法神ふれでいふを孫ふて比ふ長合
中さぶやふを法ぬ法社ふ法て曰。行ぶ新ふくハぬ神毒儀のあを
とふ遠一万里の波法つふ行く波ふおせんやのせんぶん女ぶふ孫ぶく
まふふく円ふもふふうハやせてふハ。天ふ迷ふこのハ者ふ行ハでふ
天ふまでふを押海ふを。夏備夏新ふ坂のふ波ふをーふふ稜

住吉の明神
赤壁の月
唐人
阪天の
口合
点者
麦山

清水寺
考夕切
への
手拭
半傷ちかそ
ひつさん
あつて
ほど
ほそ
いさした

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

受くるれを二つ丸よハ海門のうらハ拍をうたあべし。係ハ生人ハ生てハ
来よハ[illegible]とて嘆をなくくおうれんいでくるんとうを拍みて神おがん
くひ。ぬ。むちやらやうてちびされ双六の角のかを拍と打ぬ老ハコ
ゝを高社底倉男の神宝を見箱とつを拍く老とりてのぞく時ハ
百万里ハ分をくるりと。先高士天竺ハ拍を日本ハ海とさんを
くるめ波海のみれとくく考ちをびんをよ弥ハをるぬと神の
角をさーむくれぐ。う釈迦びめぐ紙るよ奉海ゆくとして紙来
天竺をとうびを弁にまるよ神ハ白波とかぐんやーやに空角ぐ。
見るを波除を数千代白馬の[illegible]あるくぐくまをを角さ中く
密分にうをうりぐう分をくうれぐ。う紙をを[illegible]の大をうにく
コリヤマアとをぐをよめけを分をくくを高岩のをぬを老人ぬと
猿がつびるう。ぬて高社ハ海とちうれ四神みく底天竺ハ[illegible]

ちびんぐ。紙ををのお新をくくまぐ紙を紙古白乗天が遠をるみをけ
出ぐ紙ををいをを付まぐ金の方の変ふあう。勇がみをその人
角波天竺ぐ底ハ一ぐん高角ハく濃を乗ハをを歩ーて。をを
角ぬ数をくぐーくう紙をを来ハ海をれーが。を白武年う行れ
ほはををいハ。式ハ角波天ハをくを山メの方をぐを来ぬくあ

(二) 高社人名神徳

使ハ如異者紙為報を年をを
拍の人柱ハ波里の女がハををを。ぬ童を教の今を拍ハ父ハ父
く紙西陣の来ぬうの異が。ちをとれりて七人の小姓をんく奪ぐ異れ
来屋人のをまいぐををむぐう。を新ぬををうに行ちをれ浮ぬ宗を
出ををを神ハ。ぬ為ハ紙の牡位をを紙乗ぬを乗ぬ二
宗ぬをををををぐをう。紙のを那を牡を高ぬぐれ紙浦をて湖れて

源氏物語をさ世後つとうん殺され。こまを横ぶと行ふ付のひ
ど経と第ってれ出家新を大住にげーごく。法る要仏教れ秘密
ふこうて嫉とおどされーが。ふとと十数のこ一さ後義ふ小嘘とつきう
ひ源氏小の者がいて。元と物言れ聞ーーえう方仮とのの遠ひて
源と大弟子病つれ元遊ばーの者人を誘ーでどまうに出るうでば。
いよくしふすけて性質この行遠ひことっりやく表古ちれ望新イ
ぎこうこ今大屋格ーー義て新こだんよる五さ加お内義が義様書
ーえちんてこうこけてわこーーちれこの思ーと大背ひいこうて
八百屋。ここはーーひ源氏。ひこの内とふーーござーひでう新源の義の内へ
ふこーーー虎のこのが格ひよ出こが。こ元ーーひ那のこんこ出ひく
源ようくれこの地でへるい。おトるつけてこんーこ出て笹の出ことて
ぎこれで。それいくーこのこよ吟こ力ぎ元ーーー出ーーこ又の里へるひへ

ぎるあーいそぎこの代こて出ていんぎーー書新ーこの抱ぎーーに。を出の人く
ここのぎくぎーーるこて出ーーー新の出ーーーー書ーーー

新しい形で、さうとかを記れ口てんでんで人よりも人は二ちのが位磯
の事ハてこれ、おとなしかりきれしの者ハ引ぜどもたりえんでこそ
を燈籠やと垂よ久されし。神告又育るふりくぞや院より俗を
八方詰合告号ごとおぼなされ。分編和家此ハ林さ人只合ひの
まもう雲や垂こんと御じます。馬鹿のこくこ御じこくこ
御垂こと只合ひよこぢ付くの垂ものく御垂あ。それら
いよくこえぐくこて只合ひ垂の家垂新。いこ先肉垂の
秘事とちこ。武垂ふ武垂までの揚芳と稚ち門弟の垂押こ
らこ。あいよもうのち坊好よ。ちかりこれこ手こ探ぬ。海家れ
ここ垂つる太好きこと。垂よつのく一宮役もそこくふちう
名れで垂ちの垂伝達垂とうげき名こ中合て件のち垂。遠久
あ人先きよこここ垂一好よ垂んで稚垂形ようあ垂垂老ふのい

垂こと人切の達ぬ垂ひうて只合ひ御おこやう医垂反の河
方方の垂御こと垂こ中づて只合い形垂ハ方の注垂て垂ち
御垂の垂こ話よ垂形ハ垂よ市形とこ人垂ここ垂ろ形は
住方こ御てうこく垂垂が垂こ赤刺とうこにこくこ垂こはし
垂血刺御にこびう御中こ御ろしてこ人垂ひ御こ住垂
反こ御こハ垂御垂のあで御反こ垂の血刺とここ押垂こふりく。
ふ よむこひ御て垂垂よ垂こ垂垂よりて御こ垂住垂の垂と垂
ここ垂世反の垂こいこ垂こんここここ垂反べこ御こいづ垂と
御こ反いここ垂こいこ垂こ御こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ
御のこいこ垂垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ
せこ御こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ
垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ垂こ

小助夫婦ふさせんとうけ。悴喜之助ゞ父ひ親元とゞめなましゝ
也家業園よりせをつとゝ月金と拾手毎月一生涯の大形と義
し百日の来福より拾とゝ名ゞ形をあるとて細工まし
てゝ名を花ゞ父ひと母ゝ割り月のこけて人さん住ゞとゝ
ひとゝゞゝゝ手引をはなしあ。ぱゝ〜天満宮の四利益を
ゝゞ。まゝ年月ゝとゝ嫁〜が行ゝ〜ゝ今ゝ行ゝ
小助夫婦のゞ〜そゝ〜ゝ此花ゝ小助ゝ

三　新橋生世門

後別参詣山重脇貴大格切と名のゝ家中九郎ゝと義そ
あゝ。ゝ父花の表新橋通の茶屋場の掃けゝ侍あゝ
ゝ。あ表たゝ小大坂の店ものゝ名加場でゝ坂れゞゞ三人がゝ
ゝゝ。そゝと武家八代前辺の廣ゝて名とゝ名ゝ

義ゝ子の俗名ゝ〜ゝ根とゝゝゝ拾ゝゝれゝゝゝ
廣橋ゝ井ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝゝ。ゝゝ今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

南北朝の頃の大伯耆の大伯耆の切刀にて、おのれ性生人は安くと
ゐと素せるくはごう成は剛の手メクまりと申て、人とは言ふ歌よ。ハ
者信の三平安なるものと行ふ物ある老師ともなく今ハ彼とも色ヤ
さんなりと物信ゞ理とて者と言ゞ安にてゐと言陸ゐるものゝ安い
人ゐゐゞてさゐ緑金ゐゐとゐ物信安ゐ新張人
そしゞて後いゞてゐ者めの行ゐ後と愛び深せらべゐ大きく刑を
さゐめを者行者ゐ世ゐにさんゐゐるまりめ。おゐもに物らを祝に主人新ハ
ゐ系所者のゐ成ゐ物信成へ者ゐ雑者ゐ表に門弟物ゐ御
主のゐゐ者の者校と刑主ゐ物要ゐ神とゐ人ゐ形者ゐ何ゐの神と者
ゐ代ゐて物。初ゐ者代帰ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ
ゐ切ゐこゞ者者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ
ゐ山ゐ成ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ
物のゐゐゐゐ行後ゐゐゐゐのゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

のゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出来之五

○讀本 自笑其債 著述用緣

京題五町通六角通下ル所
八文字屋八左衛門板元

○京一

新城禁經泉	全部八冊	自笑樂日記
同	次編 全部五冊	續金仁藏神記 全部五冊
同	三編 全部五冊	當世初江戸 全部五冊
新諸色三味線	全部五冊	詳述新発三味線 全部五冊
新城卯月酒	全部五冊	達人授者色仕組 全部五冊
新城曲三味線	全部八冊	風流曙雛形 全部五冊
浮世紀仁形記	全部五冊	
浮世紀仁形記	生部五冊	